群馬県議会　リベラル群馬
県議会の革命児！
後藤かつみ
県議会だより
vol.12
発　行　リベラル群馬　後藤かつみ事務所
住　所　高崎市八幡町800−24
TEL&FAX　027−343−1393
e-mail　ccrgoto@yahoo.co.jp
http://www.ccrgoto.com/

２月予算議会

本格的な予算討議に道筋

リベラル群馬が予算修正案を提出し、自民と激論

新たな成長戦略に道筋

H22年度予算の焦点は何と言っても「景気対策」です。後藤かつみは、従来型の公共事業中心の公共投資から、新産業の創出により新たな雇用創出に繋げる公共投資への転換を提言してきました。

今予算については、「住宅用太陽光パネルの設置補助金」として4億円を計上したことや、「北部県産材センター」を設置し、利用されずに山に放置されてきた間伐木材をバイオマス発電に活用する仕組みに着手するなど、環境分野での成長戦略に道筋をつけたことは評価できます。

しかし、これらの事業の財源が国の緊急経済対策で配られた基金財源に依存していることから、基金終了後の事業継続に課題を残しています。

リベラル群馬が異例の予算修正案提出

前原国交大臣が「本年度は工事を行わない」と明言している、八ツ場ダム本体工事に対し、県は「推進の姿勢を示す」として県負担金を予算計上しました。

これに対しリベラル群馬は、「支出の見込みのない事業に予算計上する余裕はなく、住民に身近な道路改良事業費に回すべき」として、予算修正案を提出。

本会議でリベラル群馬と自民党が修正の是非を巡り議員同士の討論を行うという異例の議会となりました。

しかし、県民目線からみて「おかしい」ことに対して修正案を示すことは、議会の本来の役割として当然のことです。その意味で、本格的な予算討議のあり方に道筋をつけることができたと言えます。

真冬の寒風の中でも毎朝県政報告を継続（新町駅にて）

県議会2月定例会閉会

予算など61議案可決

八ツ場ダム本体負担金　リベラル修正案　否決

県議会2月定例会は19日、前原誠司国土交通相が中止を表明している八ツ場ダム本体工事分の建設負担金を含む新年度一般会計当初予算案など61議案を可決、閉会した。ダムに慎重なリベラル群馬の5人が本体分の負担金を道路改築費に組み替える修正案を提案したが、建設推進を求める自民党などの反対多数で否決された。

リベラル群馬の黒沢孝行代表は修正案の提案説明で、政府の請求がない負担金を予算案に盛り込んだ県の姿勢を批判。同時に前原氏に対しても「いたずらに最終結論を先延ばしせず、早期に生活再建案を示すべき」と注文を付けた。

この後、黒沢氏と真下誠治氏（自民）が、2005年12月に本会議に導入された対面式の一問一答を初めて議員同士で行い、修正の是非をめぐり激しく応酬する一幕があった。

本会議終了後、大沢正明知事は記者団に「住民の生活再建を最優先しながら、他の5都県と連携してダム本体の推進に取り組む」と強調。17日に前原氏と会談したことを明かし「大臣は（予算不足で）ストップしていた地元の用地補償を全部実行すると言ってくれた」と述べた。

3月20日付　上毛新聞記事より

リベラル群馬重点施策の予算反映状況

1　地場中小企業対策

＜新技術・新製品開発の支援＞

「群馬ものづくり改善インストラクタースクール（東大と連携した人材育成事業）」（10,000千円）

企業訪問による丁寧な技術支援を継続

＜販路開拓支援＞

大手自動車（ホンダ等）、電機メーカーとの商談会を開催

2　雇用対策

＜人材不足分野に労働力を「誘導」していく施策＞

農業　就農留学15名（12,770千円）など

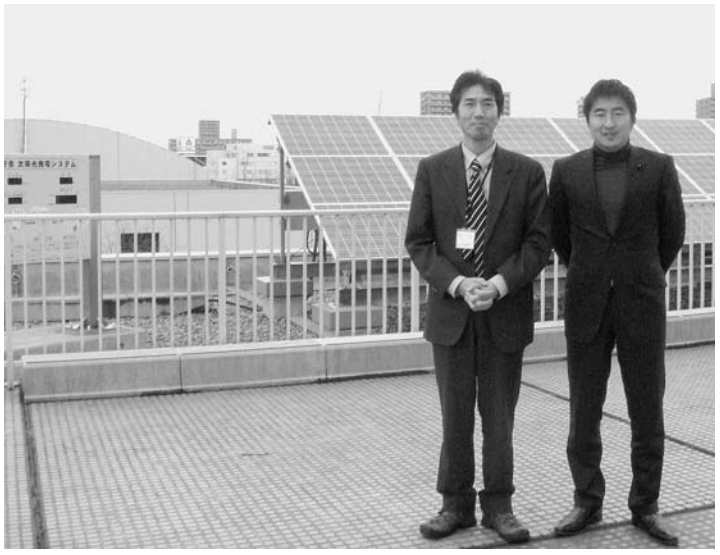
福祉　「介護雇用プログラム（福祉施設で働きながら介護福祉士・ホームヘルパー２級の資格を取る）」（10億円）など

3　新たな公共投資への転換

環境　住宅用太陽光パネルの設置補助金を4,000戸分（４億円）

農林業　「北部県産材センター」を設置し、利用されずに山に放置されてきた間伐木材をバイオマス発電に活用する仕組みに着手（379,127千円）

環境分野での産業創出の現場を精力的に視察


雪国のハンディを技術で克服した新潟県の「雪国型メガソーラー発電」計画を視察

森林率日本一（84%）のハンディを「強み」に変える！高知県の木質バイオマス発電による温暖化対策を視察